

アメリカおよびイスラエルによるイラン攻撃に強く抗議する

私たち「核兵器廃絶をめざすヒロシマの会」は、アメリカ合衆国およびイスラエルによるイランへの軍事攻撃に対し、強い憤りをもって断固抗議する。

広島は、1945年8月6日、人類史上初めて原子爆弾が投下された地である。あの日、一瞬にして無数の命が奪われ、街は壊滅し、生き残った被爆者は今なお深い苦しみを背負い続けている。核兵器の使用はもちろん、その威嚇やそれにつながる軍事的緊張の拡大も断じて許されない。

今回の攻撃は、中東地域の緊張をさらに激化させ、報復の連鎖と全面的な軍事衝突へと発展する危険をはらんでいる。とりわけ、核保有国のアメリカとイスラエルが、核開発をめぐる協議中のイランを抜き打ち攻撃したことは、人類絶滅につながる核戦争を現実化させかねない極めて憂慮すべき事態である。

米トランプ政権とイスラエル・ネタニヤフ政権は、昨年6月にイランの核施設を攻撃した。原発開発のためとするイランのウラン濃縮施設を攻撃し破壊するなら、核戦争と同じく広範なエリアへの放射能の汚染をもたらす危険極まりない暴挙である。

トランプ政権とネタニヤフ政権の軍事攻撃は国連憲章や国際法に明らかに違反し、最高指導者であるハメネイ師らを殺害したことは、武力によって主権国家の体制転覆をはかるテロリスト国家そのものというべき帝国主義的な蛮行である。ガザ地区では市民のジェノサイドがなお続くなかで、イランでも多くの市民が犠牲になろうとしている。国際紛争は武力ではなく、対話と外交によって解決されるべきである。私たちは、国連憲章の精神に立ち返り、直ちに軍事行動を停止し、緊張緩和と外交交渉の再開に向けた具体的努力を行うことを強く求める。

日本政府に対しても、軍事的対応を支持・追随することなく、被爆国として核兵器廃絶と平和的解決の先頭に立つ外交を展開するよう求める。

核は人類と共存できない。ヒロシマ・ナガサキの惨禍を二度と繰り返してはならない。私たちは、いかなる国によるものであれ、軍事力による問題解決に反対し、核兵器廃絶と恒久平和の実現のために行動し続けることをここに表明する。

2026年3月1日

核兵器廃絶をめざすヒロシマの会 (HANWA)

共同代表 足立修一、森瀧春子